

議会『村議会に』紀行『聞こう』

村民の皆さまからよく聞かれる疑問に答えてみました。

財政用語は難しかけど、どぎゃん意味な？

① 『実質収支比率』 = 『お金の余り度』

本村は【9.8%】と黒字が高め。

実質収支（本当の黒字・赤字）を標準財政規模（その自治体の財政力を客観的に比べるための基準となる規模）で割った割合。黒字が大きいほど余力あり。赤字は不足。

目安：3～5%程度の黒字が適正。マイナスは要注意。ただし10%超の黒字が続くのも一般財源が使い切れていないサイン。

② 『財政力指数』 = 『自分で稼げる力』

本村は【0.21】と財源に余裕が少ない。

基準財政収入額（国が計算した「本来入るはずの収入」）÷基準財政需要額（国が計算した「本来必要な支出」）。1.0で必要経費を自前で賄える。小さいほど交付税への依存度が高い。

目安：1.0以上は自立的、0.5～1.0は一般的、0.5未満は財源に余裕が少ない。

③ 『経常収支比率』 = 『固定的な出費の重さ』

本村は【95.9%】で投資余力が乏しい。

人件費・扶助費・公債費など毎年固定的に出る支出が、経常一般財源（地方税や交付税など毎年安定的に入り、使い道に制限の無い財源）に占める割合。低いほど裁量の余地が大きい。

目安：75%以下が望ましい。90%以上は硬直化し投資余力が乏しい。

④ 『実質公債費比率』 = 『借金返しの重さ』

本村は【14.7%】で切迫してはいないものの、引き続き注意が必要。

借金返済等の負担が財政規模に占める割合。低いほど将来の縛りが小さい。

目安：15%未満が望ましい。18%超は地方債の発行が総務大臣の許可制になり、25%以上、35%以上でさらに自由度が下がる。

厳しい財政状況の要因は地方交付税の減少や災害復旧事業に伴う地方債償還額負担の増加など。やむを得ない部分もあるが、自主財源の確保・経費の削減・計画的な予算編成と政策遂行が求められる。

編集後記

秋風が心地よい季節となりました。

実り豊かな農作物の収穫も最盛期に入り、また行楽シーズンとなり、心身ともにリフレッシュできる季節になりました。行事も多く、多忙な日々が続きます。朝夕も少し冷え、季節の変わり目です。どうぞ皆様、健康に十分お気を付けてお過ごしください。

坂田 正也

議会広報特別委員会

委員長 坂田 正也
副委員長 古澤 博之
委員 山本 涼子
〃 工藤 眞巳
〃 丸野 隆大

発行責任者

議長 山室 昭憲